

2009年度テーマ「地域の医療を守るために私たち（市民・医療者）ができること」

—顧問・安江先生の生き方—

「僕ねえ、胃がんが見つかって明日入院するんだわ。」
電話口で懐かしい声だと思つた瞬間、衝撃的な言葉に言葉を失いました。総会前日には「十二日の内視鏡検査で外出許可になる予定・出席可能七十五%」との話がきをいただいた。

そして総会十四日、誰よりも早く来てくださったのは安江先生でした。

私の心に残つた先生のお話を一つ。

両親や弟をガンで失い今自分がガンになった。苦しい検査も四回した。その最中叫んだのは、愛する女性？の名前ではなく、外科医として苦しめた患者さんたちだった。「Aさんごめんなさい。Bさんごめんなさい。Cさんごめんなさい。・・・」と何度も何度も謝つた。苦しめただけで食事をとる事も無く死なせてしまった。その人たちの苦しみを思えば今の苦しみに比べてなんともない。こんなに人を苦しめる医者なんかより美味しい料理を作り、人に喜ばれるシェフになりたかった。

自分がかろうじて医師として持ちこたえられたのは、神様からいただいた医師としての能力と感性と健康な身体を自負することだった。

「多く与えられたものは、

多くを与えなければならぬ」

先生の真の姿を見た印象深い言葉でした。



出会った時から先生は、患者さんの痛みや苦しみを何とかしたいと緩和ケアを学び、ボランティアを受け入れ、患者さんと歌い、死の準備教育、外科医として相談を受け、自然と人を愛する紀州でのお姿、そして患者としての苦しみ・先生に与えられた全てをずつと私たちに与え続けておられるように思います。

最後は自分を笑う「落ち」を入れて私たちを楽しませ、「ガン保険は全てのガンが対称になるわけではない。小さな文字で書かれてる箇所も読み落とさないように」と、最後は自分を笑うという「落ち」を入れて楽しませていただきました。

(橋詰 清子)

勉強会

3月14日(土) 13:30~15:45

シリーズI「地域の医療を守るために私たち（医療者・市民）ができること」

◆岡崎市民病院・木村次郎副院長「岡崎の医療と市民病院の現状」

- ①日本の医療の現状
 - ②岡崎の医療の現状＝医師も病床も不足
 - ③市民病院の現状＝利用率98% 救急車年間8,000台以上
 - ④市民病院の使命＝重症疾患 重症救急疾患対象・スタッフの育成
 - ⑤地域医療連携
 - ⑥地域医療破綻の理由
 - ⑦市民へのお願い＝かかりつけ医を持ってほしい・市民病院の使命を理解してほしい・できたらスタッフに感謝の気持ちを伝えてやってほしい
 - ⑧市民病院の目指すもの・急性期医療中核病院として365日24時間機能すること・患者さんから感謝され住民や医療機関から信頼され職員自身が誇れる病院でありたい
- ♥人として最初から最期まで診たいと思いつつも市民病院の使命を果たしたいと願い、市民と職員を思いやる誠実な先生の姿に感動しました。1年間このテーマで勉強会をする予定です。



◆岡崎市医師会・小出義信会長「2007年総会で話した①2次救急病院②③の施設導入について」

- ①2次救急病院もなくなっていく方向⇒①の2次救急病院は医師確保が難しくやめたいが止むを得ずと頑張っている。
 - ②2次救急と1次救急（開業医）をあわせたような施設を造るよう岡崎市に働きかけていった。
 - ③在宅のターミナルを支える施設を造るよう岡崎市に働きかけていった。
- ⇒②③は「2年間あらゆる方面に働きかけていったけれど、残念ながら結果的には御期待に副えなかった」と力を落とされた。またこれらのことを「検討する公的機関がない」事も問題である。

♥実直で正義感溢れる先生のお人柄を知っている私たちとしては、小出先生をもっとできないことならば、多くの市民がもっと現状を知ることが必要だと感じました。どんな協力ができるでしょうか。



◆岡崎市民病院・柴田睦子シヤルワカー「二人主治医はなぜ必要なのか」

“二人主治医制”は時間制限のある総合病院では聞けないことを、紹介した開業医に戻って具体的に聞きたいことをゆっくり聞き、納得し日常生活をエンジョイしてほしい。

市民病院と開業医それぞれの役割りを市民が知って利用することで地域の医療が守られる。



◆「嬉しかったこと・悲しかったこと」

私たち会員が地域の医療を守るために今できることは「医療者に感謝していることを伝えること」と考え、皆さんからの寄せられた67通の話をまとめ、3人の講師にお渡ししました。その内容を少しですが掲載します。

- ・乳がんの告知を受けた時、大変ショックを受けている私に丁寧に言葉を選びながら治療の説明をしてくださいました。何度も質問してもその都度絵を描いてわかりやすく話して下さり「一緒にがんばりましょう」という言葉が今でも忘れられません。ありがとうございました。
- ・主人が尊厳死協会に入っていることを話したら、そういう時が来たとき「今もそのお気持ちは変わりませんか」と確認されて、本当に何もしないで逝かせてくれた。ありがたかった。
- ・「がんです」と即答された。「ああ死ぬんだ」と思った。できればその言葉に「申し訳ありませんが」とか「お気の毒ですが」とか付けてくださると、次の言葉が浮かびます。
- ・がんの父が亡くなる前苦しそうな息づかいをしていた時、「だいじょうぶ苦しそうに見えるけどもう脳に転移しているから見た目ほど苦しくないよ」って 先生の大丈夫で本当にホッとしました。嬉しかった一言です。
- ・セカンドオピニオンをして初めての病院にフィルムを返しに行った時のこと「この病院では標準治療（手術）しかできないけれど手術後の治療とか薬などここでできることはいつでもするから来てください」と言われたときは、本当にうれしくて心強かったです。「快く選ばせてくださったことを感謝しています。結果は私自身が引き受けることですが何か困った時にはまたお願いします」と言えました。改めて覚悟を決めた時でした。
- ・入院中いつも「何か心配なことはありませんか。何かお困りなことはありませんか」と聞かれました。「この看護師さんには何を話してもいいんだ」と心に残った言葉です。本当にありがとうございました。



【感想】

- ・～したい ～へとなればいいなと思うことはたくさんありましたが、先生方のお話を聞いて自分たち市民がもっと現状を知る努力をして具体的に動いていくことが必要なのだと感じました。
- ・先生方の努力がとても良くわかりました。大変ですね！自分たちの医療は自分たちの手で作りあげなくてはと感じました。議員の力が大きいなら自分たちの手足となって働く議員を選ばなければいけないと思います。市民の声を大きくしなければいけない。安心して老後、病気になった時にゆだねられるところが必要です。
- ・市民の声は議員に上げられるのもよし、新聞社（中日）テレビ局（岡崎市テレビ・東海C B C・中京・愛知）を動かして記事に、レポートに、取り挙げてもらう努力をされたらいかがでしょう。医療問題 高齢化社会問題は大きな問題だけに、内容次第で動くかもしれません。
- ・「若い先生達は“ありがとう”と言われた経験が少ない」ということを聞いてショックでした。「ありがとう」を聞くことで、やる気が起きるとするのはそのとおりでと思います。「ありがとう」を聞く体験が「ありがとう」という行動へと結びつくのだらうと思います。ぜひ「ありがとう」「うれしかった」の言葉を積極的に出して行きたいと考えています。あまりにも医療体制の現状を知らな過ぎるのを実感しました。もっともっと勉強する必要と大切さを強く感じました。市議会議員さんも現在の医療の問題点や今後の医療の実情を充分理解しているのだらうか。この辺りの理解を求める必要も感じました。

“手縫い”の報告

愛知病院・市民病院・国際病院・施設へ雑巾や依頼された品を手作りしてお届けしています
(第1木曜日 13:00~16:00 カトリック教会・第2火曜日 10:00~12:00 愛知病院)



2008年度納入品の中には、雑巾1022枚・清拭布8834枚・が含まれています。この会が12年前最初に手がけたのが、タオルで雑巾を縫い古肌着を切って清拭布を作ることでした。雑巾を縫いながら「一針一針に心を込め、一瞬一瞬を大切にできる人生を送りたい」との思いで「岡崎ホスピスケアを考える会」が生まれました。その原点を大切にしながら2009年度もこつこつと縫い続けたいと思っています。

“つどい”の報告

患者・家族・遺族（誰もが遺族）の集まり
第3木曜日 10:00~12:00 事務局（橋詰宅）

メンバーによってその都度内容は変わります。ある月はお母様の介護でお忙しいAさんが「自分で納得した選びの中でさえ予想していないことが起こる」と話してくれました。人生で初めて起こることは不安と心配がつきものです。今日のように体験した人からお話を伺い、苦しみや悲しみや小さな喜びを共有することもみんなの喜びです。

